

富士見市立本郷中学校だより



群青

令和7年度全国学力・学習状況調査報告

群青 全国学調号

1 調査の目的（文部科学省）

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒（小学校6年生・中学校3年生）の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・令和7年度は国語・数学に加えて、理科も実施（理科はC B T(W e b上のテスト)により、学校ごとに異なる問題に解答し、予測正答率に基づくI R Tスコア方式）。

2 分析結果と課題（令和7年4月17日実施）

(1) 学力（平均正答率） 単位（％）

内容	全国	本郷中
国 語	54.3	50
数 学	48.3	48
理 科	503	463

本校の3年生は、全国と比較し国語と理科は下回るものの、数学は全国平均と同等。とくに数学を苦手としていた生徒がこれまでの2年間の取組をとおして、学力を伸ばしている傾向がある。問題別調査結果を分析すると、各教科にて以下のような結果となった。

なお、理科はI R Tスコアにおいて期待される予測正答率を算出したもので、500を基準とする。

【国語】

基礎的な読解力は確立されているが、根拠を明確にして思考したり、論理的に説明したりすることに苦手意識がある。日々の授業や学習において、知識の習得だけで終わらず、発展的な思考・判断・表現力の向上に取り組んでいく。

【数学】

全国平均と同等の結果となった。「図形」は得意としているが、「関数」や「データの活用」を苦手としている。証明や、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる力を伸ばしていきたい。

【理科】

「粒子」を柱とする領域（化学分野）を苦手としている。領域ごとに学習事項を整理し直し、苦手意識を払しょくしていきたい。

（２）学習状況 ※「はい」＋「どちらかといえばはい」の割合 単位（％）
（ ）内は分析と今後の方針

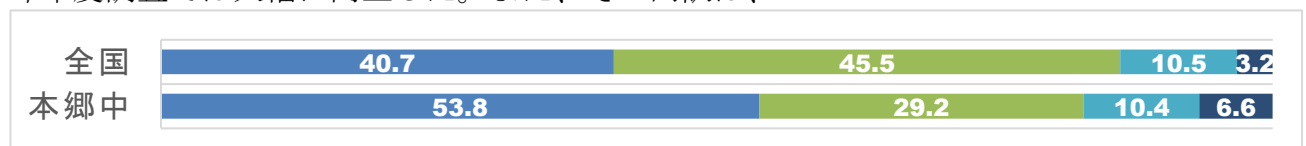
	質問項目	全国	本郷中
1	国語の勉強は好きですか （「好き」を「学力」につなげられるよう指導していきたい）	57.9	62.2
2	数学の勉強は好きですか （数学の学習に前向きに取り組む生徒が増えてきた）	53.8	55.7
3	理科の勉強は好きですか （理科の面白さを感じることから学力向上に努めていきたい）	63.8	48.1
4	自分には、よいところがあると思いますか （自己肯定感を育て、自分に自信をもたせていきたい）	86.2	83.0
5	将来の夢や目標を持っていますか （学習・生活を将来の夢や目標につなげていきたい）	67.5	67.9
6	いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思いますか （高い水準を維持しているが、ここは100%にする）	95.9	98.1
7	人の役に立つ人間になりたいと思いますか （引き続き、他者のために活躍できる生徒を育てていきたい）	96.6	99.1
8	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか （他者の考えを受け入れながら学び合うことができている）	79.2	84.0
9	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか （地域や社会に貢献する意識が育っている）	75.3	82.1

3 課題の解決策

質問紙調査（学習状況や生活等に関するアンケート）では、70のアンケート項目に回答しているが、そのうち9項目を取り上げた。

教科に対する好き嫌いは、学力に直結していく。調査対象以外の教科も含めて、学校ではそれぞれの教科に対して、日常生活の中での活用につなげたり、社会に出たときに役に立つなどの意識付けをし、学習意欲の向上につなげていきたい。

昨年度調査（現高1生対象）では、「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に対し、肯定的回答は全国83.3%に対し、本校は74.7%と低かったが、今年度調査では大幅に向上した。また、その内訳は、



上記グラフのように、「ある」と「どちらかといえばある」の肯定的回答を足したデータだと全国平均を若干下回るが、「いいところがある！」と胸を張って回答した生徒が53.8%もいた。「どちらかといえばない」「ない」と回答した合計17%の生徒も、自分の長所・短所も受け入れ、『自己肯定感』や、自分自身の存在が人の役に立っているという『自己有用感』をもてるよう、学校生活の中で培っていききたい。